



例会:毎週水曜日 12:45~ 例会場:勇屋会館 事務所:安曇野市豊科 4312-6 奥村ビル2F

RI テーマ

TEL:0263(73)2901 FAX:0263(72)3181 E-mail: [azumirc@poppy.ocn.ne.jp](mailto:azumirc@poppy.ocn.ne.jp)

会長 小穴 実 幹事 藤森 康友

R.I会長 ゴードン R. マッキナリー ガバナー補佐 場々洋介

クラブ標語【クラブに希望を生み出そう】

《 会員増強・新クラブ結成推進月間 》



世界に希望を生み出そう



## 第2600地区ガバナー公式訪問

★ 配布・幹事報告号 No.5 ・第1回理事会報告

★ ロータリーソング・奉仕の理想

★ ゲストのご紹介

- ・国際ロータリー第2600地区ガバナー 折井 正明 様
- ・ // 地区幹事 渡辺 聡 様
- ・ // 地区副幹事 高木 伸幸 様
- ・ 中信第一グループガバナー補佐 場々 洋介 様

★ 会長挨拶

【小穴会長】

皆様こんにちは!

昨日は立秋でしたが、本日は若干台風の影響が曇り空ですが、連日暑い日が続いております。

引き続き健康管理にご自愛くださいませ。

大きな被害を沖縄・九州地区

にもたらしている台風6号ですが、今後九州地方を通過するものと思われませんが、大きな被害が出ないことを祈りたいと思います。被害と申しますと、7月14~18日にかけて秋田県に大きな被害が出ましたが、2600地区として第2540地区へ災害義援金をお贈りすることとなったことを地区より報告がありましたのでお知らせいたします。

詳細につきましては回覧させていただきますので、ご確認ください。

紹介が遅くなりましたが、本日はガバナー公式訪問日と言うことで、ゲストに国際ロータリー2600地区2023-24年度ガバナー折井正明様、地区幹事の渡辺聡様、地区副幹事の高木伸幸様をお迎えしております。

折井ガバナーにおかれましては、ガバナー補佐時代に3度、今回で4度目のクラブ訪問となるかと思っております。

後ほど国際ロータリー、地区方針などをご指導頂きますが、今年度の最大なる目標は「目に見えるポリオ根絶活動キャンペーン」と言うことで地区初の合同イベントとなる古着de ワクチンを開催いたしますので、ご協力のほどよろしくお願いたします。当クラブでは10月4日までに各会員による古着の回収をお願いしてありますが、当日は渡辺地区幹事が引き取りに来ていただけるようになっております。イベントの当日は、会場若しくはネットにて拝見いただく事になりましたので、よろしくお願い致します。

望月パストガバナー曰く、「折井ガバナーは今後RI理事はもとより、RI会長を目指すことの出来る逸材」と評価されておりました。今後益々のご活躍をご期待申し上げます。

さて、本来ですと先週の親クラブである松本南ロータリークラブの野本会長来訪例会で紹介しなければいけませんでした。昨日RI2600地区のガバナーノミニエ(2025-26年度ガバナー)に松本南ロータリークラブの小林磨史さんに決定されましたのでご報告いたします。当地区では久しく輪番制によりグループが責任をもってガバナーを輩出することとなっておりますが、「適材は至適の時にしか居ない」との判断から前例を排して選出されたようです。小林さんは今年度、我がクラブの場々さんと時を同じくして中信第2グループの折井ガバナー補佐をお勤めされております。正式には地区大会若しくは臨時会長・幹事会を以って決定をされるものと思っておりますが、引き続き地区のために頑張ってください。

次週は納涼家族例会となります。ご出席予定の皆様はご家族と共にバーベキュー大会をしっかりと楽しんでください。それでは本日もよろしくお願い致します。



ガバナー公式訪問

★ 幹事報告

【藤森幹事】  
別紙参照



◇出席報告

会員総数 20 名 出席免除会員数 1 名	
本日の出席率	前々回 (7 月 26 日修正出席率)
出席者: 11 名	欠席者: 6 名
欠席者: 8 名	メキップ: 2 名
出席率: 58%	出席率: 80%

★ ニコニコ BOX 報告 (敬称略)

- 小穴: 折井ガバナー・渡辺地区幹事・高木副幹事・場々AG・三原幹事・二木副幹事をお迎えして、よろしく御指導下さいませ
- 藤森(慶): 折井ガバナー公式訪問 ご指導よろしくお願ひします。
- 場々: 折井ガバナーと渡辺地区幹事、高木副幹事をお迎えして
- 三原: 折井ガバナー・渡辺地区幹事、高木地区副幹事ようこそ 本日は宜しくお願ひします。
- 二木: 折井ガバナー・渡辺地区幹事、高木副幹事様をお迎えして、ようこそ!
- 笠原: 豊科近代美術館で岸野圭作画伯の展覧会が開催されます。岸野さんは 松本南 RC の会員であり、地元三郷に住んでいます。是非御覧ください。
- 濱: 折井正明ガバナー・渡辺聡地区幹事、高木伸幸地区副幹事・場々洋介ガバナー補佐をお迎えして。
- 高木: 折井ガバナー・渡辺地区幹事、高木地区副幹事・ガバナー補佐場々さんをお迎えして
- 小野: 折井ガバナー様をお迎えして よろしくお願ひします。
- 赤羽: 折井ガバナー・渡辺地区幹事・高木地区副幹事をお迎えして
- 丸山(慶): 第 2600 地区 折井ガバナー・渡辺地区幹事、高木副幹事、場々ガバナー補佐をお迎えして!
- 渡辺聡様(松本 RC): 折井年度 1 年間 ドブプリお世話になります。

[計 12 件 23,000 円]

今年度のニコニコ BOX 計 80,000 円



【高木委員長】



◇国際ロータリー第 2600 地区ガバナー 講話

【折井正明 様】

みなさん、こんにちは。今日は「私たちのロータリーライフを実りある楽しいものにするために」というテーマで、また副題を「Rotary に 学び、行動し、楽しみましょう!」ということで、2023-2024 年度の国際ロータリー第 2600 地区でのロータリーライフを実りある楽しいものにしていくためのお話をさせていただければと思います。



ゴードン・マッキナリー会長は、今年 1 月に開催された国際協議会の開会メインセッションで「世界に希望を生み出そう」という 2023-24 年度の RI テーマを発表しました。そして、世界に希望を生み出すために重要な方法は**平和に重点的に取り組む**ことであり、過去 1 年間、ロシア軍による侵攻を受けたウクライナの人びとを支援するためにロータリー会員が行動してきたことに言及し、平和に重点的に取り組むことを通じて世界に希望を生み出すことを年度のテーマとしました。すでに、洪水で大きな被害を被ったパキスタン、トルコとシリアで起きた悲惨な震災に手を差し伸べる取り組みをしています。



また、ゴードン・マッキナリー会長は、これまでのアイデアや取り組みを”継続”し前進させることの重要性を強調しました。さらに、新型コロナウイルスの世界的流行などによって深刻化しているメンタルヘルスの問題の影響を受けている人たちにも、ロータリー会員にも**希望**を与えるべきだと述べました。

このビジョンは、国際ロータリーの理事会と財団管理委員会によって2017年6月に承認されました。ビジョン声明が採択されて間もなく、戦略計画委員会はロータリーの新し



い行動計画の立案を開始しました。2018年6月、新しい行動計画を押し進めるための戦略的優先事項と目的が策定され、理事会と管理委員会によって承認されました。以来5年間、ロータリーの現在に至る極めて重要な指針、それがこのビジョン声明であり、継続し前進させるべきこれまでの主な取り組みは以下の通りです。

**行動計画 (THE ACTION PLAN) と 4 つの戦略的優先事項**

**【戦略的優先事項】**

1. 既知の成果と実証された証拠に基づいて奉仕プロジェクトを立案する
2. 私たちが奉仕するすべての人とオープンで、インクルーシブで、思いやりのある心をもって接する
3. 世代や国境を超えて活動し、多様な人々との関係を築くためにもっと機会を探し求める
4. 世界に持続可能な変化を生む新しいアイデアや視点を進んで受け入れていく

**【行動計画】**

1. 「より大きなインパクトをもたらす」
2. 「参加者の基盤を広げる」
3. 「参加者の積極的なかわりを促す」
4. 「適応力を高める」

### 行動計画 (THE ACTION PLAN)

国際ロータリーでは、行動計画を受け入れ、実行するための現実的な方法をクラブに提供することこそが、地域社会で持続可能な変化を生む最善の方法だと考えています。

そして、行動計画に盛り込まれるべき要素として、四つの戦略的優先事項の内容が次のように示されました。

・既知の成果と実証された証拠に基づいて奉仕プロジェクトを立案する方法について会員に話す必要があります。これが「より大きなインパクトをもたらす」という行動計画の最初の項目の前提になります。例えば、過去35年にわたってロータリーが心血を注いできた END POLIO NOW ポリオ根絶活動を見れば、その軌跡や実績はデータによって、また、映像やその他の資料によって実証されてきています。

・そして互いに私たちが奉仕するすべての人とオープンで、インクルーシブで、思いやりのある心をもって接すること、これが「参加者の基盤を広げる」という行動計画の二番目の項目に

対応します。

・世代や国境を超えて活動し、多様な人々関係を築くためにあらゆる機会を探し求める、という三番目の戦略的優先事項が「参加者の積極的なかわりを促す」ためになくはないことを意味します。

・最後に、世界に持続可能な変化を生む新しいアイデアや視点を進んで受け入れていくことで私たちの「適応力を高める」という行動計画の4つめの項目につなげていかなければなりません。

これら四つの戦略的優先事項に基づき継続し前進させるべきこれまでの主な取り組みをゴードン・マッキナリー会長エレクト次の通りがあげています。

継続と前進の最優先項目はポリオ根絶の活動です。言うまでもなく、ロータリーは世界に先駆けてポリオ根絶活動を

開始して35年、草の根の運動は世界に影響を与えました。2026年の根絶宣言を目指していますが、今年から3年間は自然株由来の発症例がないことが、2026年の根絶宣言の条件です。予断をゆるさない厳しい状況ですが、であればこそ、私たちが最後のカウントダウンの当事者にならなければなりません。

継続と前進の次はロータリーアクトの地位向上です。世界では、ロータリーアクトクラブはロータリークラブのパートナーとしてだけでなく、Rotary全体のリーダーシップを取り始めています。今年からロータリーアクト委員会は青少年奉仕委員会の下の小委員会としてではなく、独立した委員会となります。地区ロータリーアクト委員長は地区ガバナーが任命するロータリー会員ですが、地区ロータリーアクト代表は地区内クラブが選出する1名のロータリーアクト会員が務めます。そして、地区のロータリーアクト委員長と地区ロータリーアクト代表は、地区ロータリーアクト委員会の共同委員長となります。共同委員長は、委員会メンバーと協力し、クラブの最新情報を管理し、リーダーシップ研修会を計画し、地区の奉仕プロジェクトを調整するなど、ロータリーアクトクラブの支援に当たります。

次に、**女児のエンパワメント** Rotaryのエンパワメントとは、手を差し伸べるだけでなく、それぞれが秘めている能力、才能を遮っているモノを取り払う取り組みと整理されています。メータ会長、ジョーンズ会長に続き、ゴードン会長エレクトは女児のエンパワメントを継続しつつ女性のエンパワメントに前進させようと呼びかけられました。私たちの地区では、まずは女性会員を増やす努力が大切で、次のDEIにも関わってきます。

**DEI 多様性・公平さ・インクルージョン**

D=Diversity (多様性)

E=Equity (公平さ)

I=Inclusion (インクルージョン)

みんなを温かく迎え入れるクラブ体験も

イマジンする：心地よさと配慮 J.ジョーンズ

DEIを全面的にサポートすることは、単に会員数を増やすことを意味するわけではありません。ロータリーが本当に素晴らしい人たちから構成されていること、それが担保されるためにもDEIは大切です。

DEIの最も重要な側面は、クラブをどこからであれ最高の人材、最高のアイデア、最高のパートナーシップでみんなを温かく迎え入れる場にしていくことです。多様な会員が入会しても、インクルーシブ(包摂的)な文化が培われていなければ、クラブへの帰属意識が持てずに退会してしまう

会員が出るでしょう。また、親近感が持てずに入会をためらう人もいるでしょう。これは見せかけて批判を防いだりするために、少数派に属する人を何人かグループに含めるといった名目主義的な対応ではいけません。

- 例会では卓話ゲストをどのような基準で／誰が選んでいますか。会員が自身の経験について話す機会を設けることで、クラブが各会員の価値を大切にしていることを示していますか。例会に誰が参加していますか。発言が少ない会員は誰ですか。
- 奉仕活動ではクラブの奉仕活動に市民にも参加してもらったり、活動のアイデアを市民から提案してもらったりしていますか。
- 地域社会の差し迫ったニーズに取り組んでいますか。地域社会よりも会員の満足感を満たすような活動をしていませんか。

このような観点から DEI にアプローチしてみてもいいかでしょう。



私が当地区本年度のガバナーとして地区標語を Let's send out the joy of Rotary in action, hand in hand! 「手をつなぎ行動するロータリーの喜びを発信しよう!」としたのは、私たちが三年も続いたコロナ禍で多くの苦しみや会員減少の痛みを経験する中、今こそマッキナリー RI 会長と気持ちをつなげて、持続可能な良い変化をもたらすために手を取り合い共に行動することの喜びを実感し、またそのことを世の中に発信することが大切だと考えたからです。

そしてその行動とは、過去 35 年の長きにわたり国際ロータリーが世界の先駆けとして展開してきたポリオ根絶活動が最もふさわしいと思いました。私たちがその意味を改めて振り返り、2026 年のポリオ根絶宣言を目指して最後のカウントダウンに自らがコミットすることを通じロータリーとは一体何をしてきたどのような団体なのかを改めて身をもって経験することで、私たちのロータリアンとしてのアイデンティティーを再認識することがまさに今なすべき継続と前進に他ならないと思えたからです。

私たちがポリオ根絶に向かって手を取り合って行動する中に喜びを実感することが出来れば私たちの仲間が増え

ていくことへの希望が芽生えるのではないかと願うからでもあります。地区の基本方針を「ロータリー行動計画をポリオ根絶活動を通じて地区全体として明確に実現する」とし、新年度の重点目標を「あと一歩まで来たポリオ根絶のために私たちは行動する」と屋上屋を重ねるが如くに



強調をいたしました理由はそこにあります。

あと一歩まで来たポリオ根絶のために私たちは行動する、という新年度の重点目標の 4 つのねらいについて説明して参ります。

### ① 「ロータリーの公共イメージ向上」

ポリオ根絶活動は TV や新聞など様々なメディアを通じて発信し、また当年度の地区大会のメインテーマにも掲げます。メディアを通じての発信は地区の予算に広報活動をの地区から一元的に行う計画です。また、「古着 de ワクチン」であっても例えば「END POLIO ゴルフコンペ」であっても、古着 de ワクチン・キャンペーンをデザインした T シャツを皆さんに着用していただくように地区で一括して準備いたします。後ほど、その枚数やサイズについて皆さんから申請していただくための手続きにつきましては、地区副幹事さんから具体的な説明をしていただきますが、このような地区を挙げての一連の事業が相互に関連づけられ「ロータリーが今日までどんな事を重視して何をやってきた団体か」ということを私たちロータリアン自身が連携して行動する中で再認識しつつ、END POLIO キャンペーンを通じて、広く世の中により純粋に平和と希望を求めるロータリーのあるべき公共イメージを遡及することを目指します。

### ② 「広がりある参加者の基盤と積極的な参加」

インターアクトやロータアクト、青少年交換留学生や米山奨学生、学友会さらには一般市民がポリオ根絶という共通の目的に向かってそれぞれに関与し参加することを通じて DEI を実践しつつ、「参加者の基盤を広げる」と、「参加者の積極的なかわりを促す」という行動計画の中の二つの要素の実現を目指します。



### ③ 「ポリオ根絶と会員増強に向けてのより大きなインパクト」

R 財団の世界基金 (WF) の1.5倍上乗せ政策と”ビル&メリンダ・ゲイツ財団”の寄付額倍増契約を活用し DDF (R 財団地区資金) や寄付の投入効果が最終的に4.5倍になる仕組みを利用してワクチン供給のための財政基盤強化により大きく貢献しポリオ根絶への直接的な貢献度を高めます。END POLIO キャンペーン活動による公共イメージ向上と財政基盤への実質的貢献の相乗効果は更にその副次的効果の帰結として「会員増強」という「より大きなインパクト」を導くことが期待されます。

### ④ 時代精神にのっつた他団体との協調・連携により「適応力を高める」

多様な参加者が共に連帯感を醸成しつつ END POLIO NOW への意識を共有し向上させることが出来るとすれば、その背景には必ずしもロータリーにおける基本理念や中核的価値観の普遍性がありますが、加えて DEI や SDGs 特に環境・生命・事業などにおけるサステナビリティに代表される私たちの時代精神 (ムード) や希望があります。そうした時代精神や希望に私たちが適応していること、あるいはサステナビリティのアイデアをより良く体現し、あるいは実現しつつある団体と協調し連携することで私たちの適応力をさらに高めましょう。認定NPO世界の子供にワクチンを日本委員会や、そのアイデアの下で「古着 de ワクチン」事業を展開する日本リユースシステム株式会社といった団体や企業との協調や連携を例としてあげることが出来ます。



#### I. クラブおよびグループ

- ① 地区委員会への参加促進と地区重点目標への積極的な地縁的連携
- ② マイロータリーの登録 60% 以上とクラブセントラルの活用
- ③ ローターアクトクラブ地位確立の支援
- ④ DEIの理解促進と会員増強 (女性や若年会員の入会強化)

#### II. 地区委員会

- ① 「継続」と「前進」への意識的・意欲的な取り組み (次年度人事)

- ② 地区方針・重点目標の実現のための機能的連携
- ③ ローターアクトクラブ地位確立の支援

#### III. 寄付目標

- ① ロータリー財団への寄付

年次基金への寄付	1人150ドル
ポリオへの寄付	1人30ドル (Tシャツ de ワクチン参加=8ドル)
平和センターへの寄付	1人200円
恒久基金への寄付	1クラブ1000ドル

- ② 米山記念奨学会への寄付は1人普通寄付金3000円と特別寄付を合わせて2万円以上を目指す

#### IV. 地区運営: 「継続」と「前進」のためのニューノーマルの定着

- ① 研修会・協議会・セミナー等におけるイン・パーソン vs オンラインのメリハリある運営
- ② 次年度準備のための年間スケジュールの早期化
- ③ 伝統に縛られない運営と財政規模に見合った地区予算

私が「継続」と「前進」のためのニューノーマルの定着としてまず①の「研修会・協議会・セミナー等におけるイン・パーソン vs オンラインのメリハリある運営」を挙げました。また、②の

次年度準備のための年間スケジュールの早期化、につきましては地区全体の充実したクラブ運営とそのサポートを目指すのであれば、また、R 財団や青少年育成基金など補助金を活用するクラブ運営の充実を担保するためには「ロータリーは単年度」という考えを完全に払しょくし、継続と前進の仕組みを作っていかなければなりません。

そして③の「伝統に縛られない運営と財政規模に見合った地区予算」ですが、数年前まで優に2千名を超えていた我が2600地区の会員数は現在1850名程度にまで減少し、地区予算は経常バランスの悪化に歯止めが利きません。それは先ほど申し上げましたように、一方で、コロナ禍により会員数がドラスティックに減少し多くの活動が制限され実施できなかったにも関わらず、あるいは新しいやり方を導入し、あるいはレジリエンスよく充実した委員会活動を展開していただいたことにより相対的に一定のコスト増の状況となったからであります。要は、これまでと同じようにすべきこと、出来ること、と出来ないことに仕分けして、変化に適応する中で前進していかなければならないわけです。具体的に申しますと私の年度では従来紙ベースで行ってきたもののデジタル化にチャレンジいたします。

